

※ 本資料は、「第6回くまもとの夢4カ年戦略推進委員会」（平成24年2月2日開催）で使用した資料を、平成24年3月31日現在で修正したものです。

## 4年間を振り返っての総括評価

平成20年に県政運営の基本方針「くまもとの夢4カ年戦略」を策定し、県民幸福量の最大化に向け、「経済上昇くまもと」「長寿安心くまもと」「品格あるくまもと」「人が輝くくまもと」の4つの分野での取組みを積極的に展開。リーマンショックに端を発した世界同時不況や東日本大震災、歴史的な円高等、厳しい環境の中で、戦略に掲げた45の指標のうち、21を達成。また、県民アンケートでは、「経済上昇」は21.9%、「長寿安心」は41.6%、「品格」は54.3%、「人が輝く」は25.1%の県民が、取組みが進んだと回答。

「くまもとの夢」である「熊本に生まれてよかった、住んでよかった、これからもずっと住み続けたい」と感じる県民の割合は、平成21年と比べ1割近く増加し、81.3%に達した。

更に、「行財政改革」「川辺川ダム問題」「水俣病問題」という喫緊の課題への対応では、まだ解決すべき課題は残されているものの、一定の道筋をつけ着実に前進した。

### ◆「4つの分野」の取組みについて(主な成果)

#### 「経済上昇くまもと」

「くまもとイチ押しブランド」の販売体制の整備や、販売チャネル拡大による海外との取引が進展。企業等の農業参入支援に取り組み、目標（30法人）を上回る50法人の参入を実現し、「くまもと農業経営塾」では次世代のリーダーを養成。全国に先駆け耕作放棄地解消対策を実施し、813haを解消。

厳しい経済状況等の影響により、全国の企業立地はピーク時の1/3に激減する中、目標件数の9割以上を達成。県内企業の販路拡大・アジア進出支援や観光客誘致のため、熊本市、熊本大学と共同で熊本上海事務所を開設。

スザンヌやくまモンも活用した関西以西での観光キャンペーン等により、23年1月から12月の近畿圏からの宿泊者数は対前年比166%にまで増加。くまモンの関連グッズ売上高は25億円以上、ゆるキャラグランプリ日本一となった広告効果は10億円以上と見込まれるなど、本県のPRに大きく貢献。

更に、口蹄疫の侵入防止は、農業だけでなく、観光など本県の経済にとっても大きな役割を果たした。

#### 「長寿安心くまもと」

「ねんりんピック2011(ふれ愛)熊本」を開催(延べ55万人が参加)し、熊本から全国へ元気を発信。男女共同参画計画は、市町村の計画策定率が33.3%から91.1%に増加。

ドクターヘリは本年1月16日に運航を開始し、防災消防ヘリと連携した熊本型ヘリ救急搬送体制が本格稼働。特別養護老人ホームなど約4,100人分の施設・居住系サービスを整備。認知症対策は、23年度末までに13万人を超える認知症サポーターを養成し、県人口に占める割合が3年連続で日本一を達成。障がい者に対する理解を深め、権利を擁護する「障害のある人もない人も共に生きる熊本づくり条例」を九州で初めて(全国4番目)制定。

市町村の消費生活相談窓口強化を支援し、11市で新たに消費生活センターが開設。刑法犯認知件数は19年から4年連続で減少し、21年には「県民を振り込め詐欺被害から守る条例」、23年には「暴力団排除条例」が施行。防災対策は、洪水ハザードマップ作成を支援し、関係全市町村で作成。

#### 「品格あるくまもと」

世界文化遺産登録を進め、阿蘇の草原、加藤・細川の歴史文化等のくまもとの宝を守る取組みを強化。

補助等により太陽光発電システムの導入を促進し、住宅用太陽光発電普及率は2年連続で全国2位。地下水を公共水と位置付け、大口採取に対する許可制の導入などを含む、「地下水保全条例」の改正を推進。

新幹線元年事業及び「くまもとサブライズ」の展開を通じ、地域の力による魅力づくりが促進。

「県都の品格ある玄関口」にふさわしい熊本駅周辺整備が進展。九州新幹線の全線開業効果を波及させるため、九州中央自動車道など幹線道路整備を推進。

#### 「人が輝くくまもと」

全国最大規模のひとり親家庭等応援事業により、ひとり親家庭に対する総合的な自立支援を推進。第3子以降3歳未満児の保育料無料化等を行う市町村への支援により、子育て家庭への経済的負担を軽減。

経済的理由で進学を断念することがないように、育英資金貸付、生活保護世帯等への大学進学支援など、「貧困の連鎖を教育で断ち切る」取組みを推進。私学振興を推進する「熊本時習館構想」により、生徒の夢の発見・挑戦・実現を応援する様々な支援策に取り組み、知事出前ゼミでは、約2万9千人以上に夢を持つことの大切さを講話。

子どもや若者の勤労観・職業観を醸成するキャリア教育を産業界等と連携して支援。全地域振興局(10カ所)に「ジョブカフェ・ランチ」を設置し、県下全域で若年者への就職支援を実施。

### ◆「喫緊の課題」への対応について

#### 「行財政改革」

知事が就任直後に月給100万円カットを実行し、21年2月には財政再建戦略を策定。職員数や職員給与の削減など、徹底した取組みを進めた結果、23年度当初予算編成後の財政調整用4基金(貯金)は8億円増加し、61億円となった。また、通常県債残高(借金)についても、19年度末の約1兆700億円から毎年度減少し、24年度末には1兆円を切る事が確実となった。

#### 「川辺川ダム問題」

知事が20年9月に川辺川ダム計画の白紙撤回を表明。「検討する場」を設置し、国、県、流域市町村でダムによらない治水対策の検討を進め、治水安全性の向上を図った。また、21年9月に「ふるさと五木村づくり計画」を策定。五木村振興基金を活用し村の振興(ソフト事業)を図るとともに、23年6月には国、県及び村による「協議する場」で補償から振興へと一定の合意に至り、三者一体となり村の振興(ハード事業)に踏み出した。

#### 「水俣病問題」

21年7月、「水俣病被害者救済特別措置法」が可決成立し、最終解決に向けた取組みを進める体制の一つが整備された。また、23年3月には、被害者団体約4千人とチッソが紛争終結の協定を締結するとともに、ノーモア・ミナマタ3訴訟が和解成立し、被害者救済が前進。

## 1. 「4つの分野」について

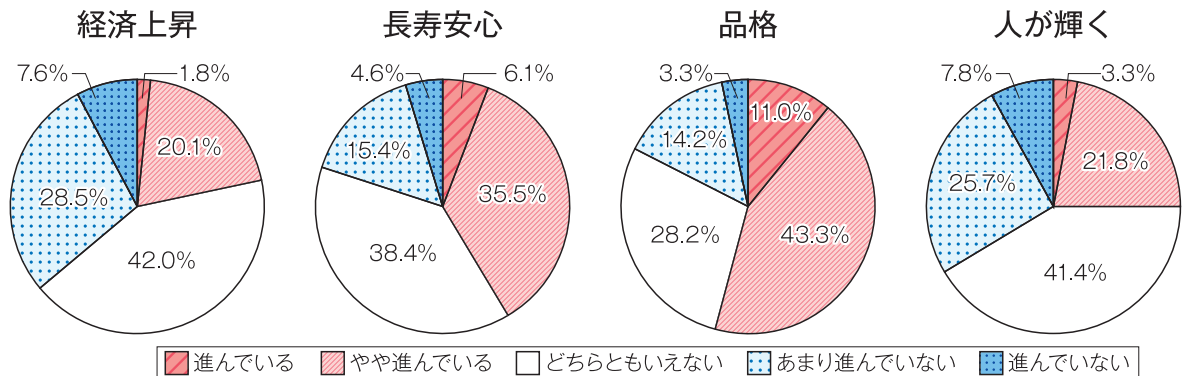
### (1) 戦略指標の達成状況

分野	指標数	目標値達成	上向き	横ばい	下向き	— ※2
経済上昇	10	3 (30%)	0 (0%)	1 (10%)	6 (60%)	3 (30%)
長寿安心	13	7 (54%)	12 (92%)	0 (0%)	1 (8%)	0 (0%)
品格	13	6 (46%)	9 (69%)	1 (8%)	2 (15%)	1 (8%)
人が輝く	9	5 (56%)	8 (89%)	0 (0%)	1 (11%)	0 (0%)
計 ※1	45	21 (47%)	29 (65%)	2 (4%)	10 (22%)	4 (9%)

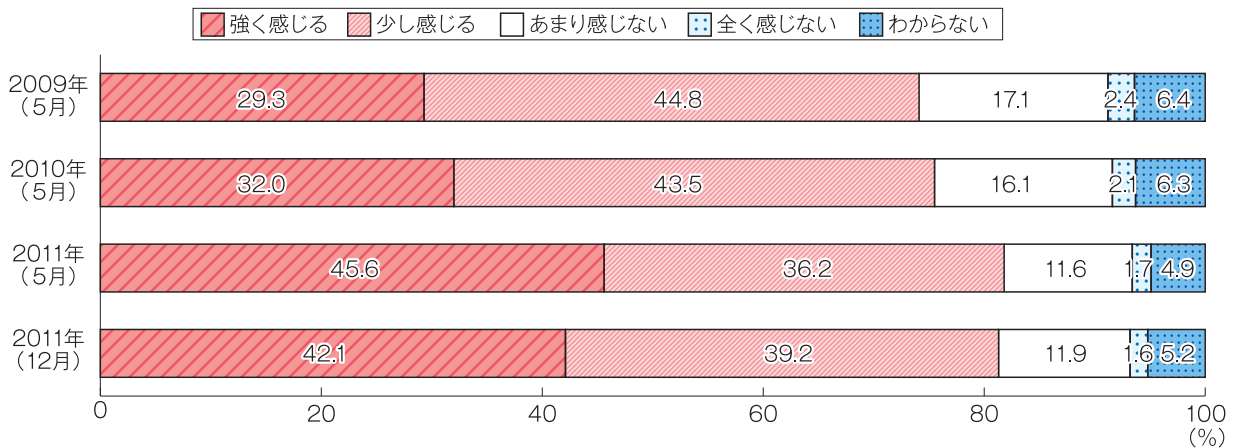
※1：『観光宿泊客数』を「経済上昇」と「品格」の両方で採用しているため、実数は44指標。

※2：平成20年度からの累計で示す指標。常に上向きになるため、「-」と表示。

### (2) 県民アンケート結果



## 2. 「くまもとの夢」“熊本に生まれてよかった、住んでよかった、これからもずっと住み続けたい”の実感について



## 3. 今後の取組みについて

これまで、4カ年戦略の推進にあたっては、戦略指標の達成状況や県民アンケート結果を活用した政策評価を実施し、PDCAマネジメントサイクルによる成果重視の県政運営を行ってきた。

県民アンケートでは、「くまもとの夢」“熊本に生まれてよかった、住んでよかった、これからもずっと住み続けたい”ということを感じる県民が、2011年5月は81.8%、同12月は81.3%に達し、2009年から1割近く増加している。4カ年戦略で最上位の目標としている「くまもとの夢」の実現に向け着実に進んだといえる。

分野別に見ると、「経済上昇」で、10指標のうち、目標値を達成したものが3指標にとどまり、下向きの指標が6指標。また、県民アンケートでも36.1%が「進んでいない」と回答しており、目標達成は十分ではないため、更に重点的に取り組んでいく必要がある。

「長寿安心」「品格」では、指標については概ね目標値を達成しており、アンケート結果でも4～5割強の人が「進んでいる」と回答するなど、前進している状況。

「人が輝く」では、9指標のうち、目標値達成は5指標、上向きは8指標であるが、県民アンケートでは、33.5%の人が「進んでいない」と回答しており、更なる取組みの強化が求められる。

個別施策の課題は別紙に記載しており、今後とも、これらの課題を踏まえた取組みを着実に進める必要がある。

# I 経済上昇くまもと ~農林水産業、商工業、観光~

## 1 戦略の概要

### 【戦略1：農林水産業】

魅力的で、豊かな基盤を持ち、世界に飛躍する農林水産業

### 【目標】

農林漁業者の安定した所得を確保します。

### 【重点的に取り組む施策】

- 県産品の認知度向上と販売チャネルの拡大
- 担い手の育成
- 耕作放棄地及び休耕田の有効利用促進

### 【戦略2：商工業】

活力があり、雇用を創出する商工業

リーディング産業の更なる集積と中小企業の振興により、地域経済を活性化させ、雇用の場を確保・充実します。

- 戦略的企業誘致の推進
- 中小企業の技術・経営・販路開拓の支援

### 【戦略3：観光】

「記憶に残る観光地」歴史回廊くまもと

県内の観光宿泊客数を増やします。

- 歴史回廊くまもと観光立県の推進

## 2 指標の動向

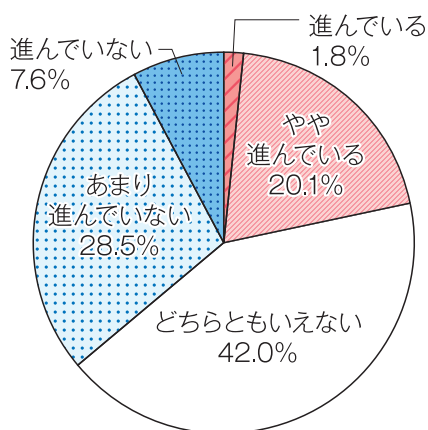
### ○戦略指標の状況

※「指標の動向」欄は、戦略策定時と評価時の比較を表している。  
なお、平成20年度からの累計で示す指標は常に向上きとなるため、「-」と表示。

	指 標	戦略策定時 (平成20年度)	評価時 (平成23年度)	指標の 動向	目標値 (平成23年度末)	備 考
戦略1	農林水産業の生産額	3,517億円/年 (農2,984、林145、水388) (H18)	3,458億円/年 (農3,004、林122、水332) (H21)	→	3,800億円/年 (農3,240、林170、水390)	・林業:木材の需要減少 ・水産業:アサリの漁獲量減少 ノリの養殖量減少
	県内食料自給率 (生産額ベース自給率)	152% (H17)	152% (H21)	→	167%	
	認定農業者数	11,266経営体 (H19)	11,057経営体 (H22)	→	11,000経営体以上	《目標値達成》 高齢化等による再認定申請数の減少により若干減少
	耕作放棄地・休耕田の解消による作付増加面積 (耕作放棄地は平成20年度からの累計)	- (H19)	2,211ha (H23 暫定値)	-	1,800ha	《目標値達成》 ・耕作放棄地 813ha(～H23) ・休耕田 1,398ha(H23)
	県産農林水産物輸出額	27.7億円/年 (農0.8、林0.03、水26.9) (H18)	19.5億円 (農1.7、林0.2、水17.6) (H22)	→	43億円/年 (農1、林1、水41)	農産物は目標値を達成したものの、リーマンショック以降、欧米向けのプリ類が減少
戦略2	企業誘致件数 (平成20年度からの累計)	114件/4年 (H16～H19)	91件 (H24.3)	-	100件/4年間	
	製造品出荷額	2.8兆円/年 (H18)	2.5兆円/年 (H22確定値)	→	4兆円/年	世界同時不況の落ち込みから全国的に回復傾向にある。本県の増加率(8%)は、全国平均の増加率(7.3%)を上回った。
	新規雇用者数 (平成20年度からの累計)	5,371人/4年 (H16～H19)	11,209人 (H24.3)	-	1万人/4年間	《目標値達成》
戦略3	観光宿泊客数	691万人/年 (H19)	647万人/年 (H22)	→	750万人/年	リーマンショック後の世界同時不況や新型インフルエンザの影響等により、全国的に落ち込み(※H23は、近畿圏からの宿泊客数が増加傾向)
	外国人宿泊客数	40万人/年 (H19)	33万人/年 (H22)	→	55万人/年	

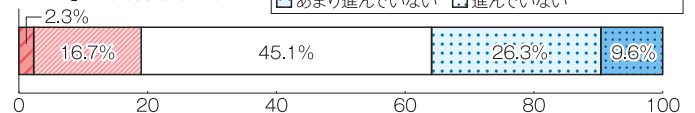
### ○県民アンケート結果 (2011年12月調査)

《「経済上昇くまもと」分野の進み具合について》

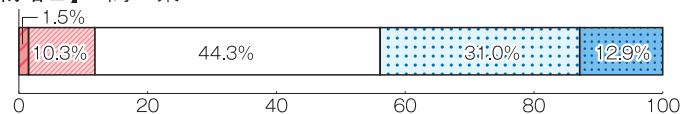


《「経済上昇くまもと」分野を構成する各戦略の進み具合について》

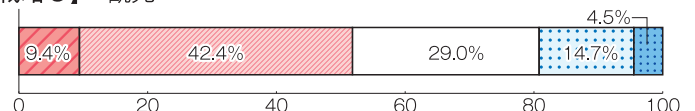
#### 【戦略1】 農林水産業



#### 【戦略2】 商工業



#### 【戦略3】 観光



### 3 戦略の主な成果および今後の課題

#### 【戦略1】魅力的で、豊かな基盤を持ち、世界に飛躍する農林水産業

##### 【県産品の認知度向上と販売チャネルの拡大】

- 梨「秋麗」、お中元用デコポン、クマモトオイスターなど、「くまもとイチ押しブランド」の販売体制の整備を推進。(梨「秋麗」:H19 0ha → H22 12ha)
- サポーター・誘友大使の口コミ、新聞やキャンペーンなどでのPR、知事トップセールスなどにより県産農林水産物の認知度が向上し、販売チャネルの拡大につながった。
- 香港、シンガポールへのトップセールスや東アジア食の商談会の開催により、新規取引先の開拓や取引拡大が進展。(輸出延べ品目数:H20 21品目 → H22 33品目)
- 更なる品質向上、国内外の消費者等のニーズに応じた商品開発や販売体制整備とともに、生産基盤の拡充による安定した出荷体制の確保が必要。



学校給食(米粉パン)

##### 【担い手の育成】 ※「担い手」…認定農業者、地域営農組織、林業事業者等

- 知事特命プロジェクトとして企業等の農業参入支援に取り組み、当初の目標（3年間で30法人）を大きく上回る50法人の参入（H23.9時点）を実現し、耕作放棄地の解消（53.4ha）、雇用の創出（常用雇用者数208人）などにも貢献。
- 農業経営塾（H22に25名が卒業）や漁業者セミナー（計20回）の開催により、県の農業や漁業を担うリーダーを育成。
- 多様化・増加する就農相談に対して、ワンストップでの対応体制を構築し、相談件数が平成23年度：642件（前年度比15%増）と増加。また、新規就農者も増加。(新規就農者:H20 159人 → H23 266人)
- それぞれの地域が主体となった新規就農者の育成・定着を図るとともに、企業参入では各ケースに応じたきめ細かな対応や販路拡大支援等により定着を図ることが必要。

##### 【耕作放棄地及び休耕田の有効利用促進】

- 耕作放棄地解消に向けた取り組みの県民運動としての展開やイェロプロジェクト事業による菜の花等の景観作物の作付けなどにより、耕作放棄地の解消と美しい農村景観の形成を推進。(耕作放棄地解消面積:813ha(H20~H23の暫定値))
- 学校給食への米粉パン普及や飼料用米を利用した畜産物の消費拡大により、非主食用米の作付拡大を図り、休耕田の有効利用を推進。(米粉用米184ha、飼料用米1,118ha、焼酎用米96ha(いずれもH23の作付面積))
- 耕作放棄地発生を抑制するため、担い手の確保、農地の利用調整、基盤整備の促進、経営的に安定した作物の導入等が必要。

#### 【戦略2】活力があり、雇用を創出する商工業

##### 【戦略的企業誘致の推進】

- リーマンショックや歴史的円高の進行、電力供給不足問題等が影響し、全国的には国内の企業立地はピーク時（H19）の1/3にまで激減する中、目標100件の9割以上（H24.3現在 91件）を達成し、雇用の場の確保及び本県経済の振興、税源かん養に貢献。
- 「産業人材強化支援センター」及びポータルサイト「ジョブチャンネルくまもと」の開設・運営により、産業人材の育成・確保に関する情報提供や相談業務等が充実した。
- 進出企業のマザー工場化（開発拠点の併設や多品種少量生産拠点化）を図り、「選ばれる生産拠点」として企業の集約を目指すことや、研究開発部門の誘致を図るため、県内大学等研究機関と共同で企業の研究開発シーズの発掘や共同研究・開発の取り組みを積極的に展開していくことが必要。



産業技術センター新本館

##### 【中小企業の技術・経営・販路開拓の支援】

- 県産業技術センターにおける技術支援拠点としての機能の充実を図り、中小企業の技術力を強化する支援体制を整備。また、「くまもと有機薄膜技術高度化支援センター(Phoenix)」の設置など、新たな産業集積に向けた基盤づくりも進展。
- 平成22年度よりリーディング企業（付加価値10億円以上）を目指す37社を認定・支援し、うち1社が達成、概ね10億円となった企業も2社。
- 県内企業の販路拡大・アジア進出支援等のため、熊本市、熊本大学と共同で熊本上海事務所を開設。
- 企業の技術力や経営力強化のため、支援機関の機能強化や、産学連携・企業間連携等による製品開発・販路開拓（海外を含む）支援等の強化が必要。

#### 【戦略3】「記憶に残る観光地」歴史回廊くまもと

##### 【歴史回廊くまもと観光立県の推進】

- 本県の歴史遺産を巡る周遊バスツアー企画への支援を通じて、五木村や武蔵関連史跡等を巡る新たな旅行ルートの開発が進展。(バスツアー企画本数:H20 12本 → H23 35本)
- 全国初となる路線バス網を活用した旅行商品の造成や販売システムの構築、歴史回廊くまもとマップの作成などにより周遊性が向上。(旅行商品造成数:H20 → H23 397件)
- スザンヌやくまモンも活用して関西以西の都市圏をターゲットとした大型観光キャンペーンを展開し、近畿圏からの宿泊者数伸び率が前年同期比166%（H23.1~H23.9）に向上。
- くまモンの関連グッズ売上高25億円以上（H23.12現在）、ゆるキャラグランプリ日本一となった広告効果は10億円以上と見込まれるなど、本県のPRに大きく貢献。
- 姉妹提携先である中国の広西壮族自治区、韓国の忠清南道を中心に、本県の観光及び物産の積極的なPRを実施。
- 「Kタッチナビ（携帯電話で観光・交通情報等を簡単に取得できるシステム）」の運用や案内板等の4ヶ国語表記化などにより、外国人を含む観光客へ観光・交通・特産品情報を提供。(案内板等多言語化整備率:H19 63.5% → H23 84.5%)
- 確固たるブランドイメージの形成と来訪者満足度の更なる向上を図るとともに、外国人観光客を回復させることが必要。



DESTINATIONキャンペーン・オープニング

# II 長寿安心くまもと ~健康・社会参画、医療・福祉、安全安心~

## 1 戦略の概要

### 【戦略1：健康・社会参画】

県民一人ひとりが人権を尊重され、健やかに生き甲斐を持って力を発揮できる社会

### 【目標】

健やかで多様な生き方を選択できる県民を増やします。

### 【重点的に取り組む施策】

- 健康増進・長寿づくりの推進
- 男女共同参画の推進

### 【戦略2：医療・福祉】

住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会

保健、医療、福祉サービスを必要ときに受けられる体制を整備します。

- 地域医療体制の整備
- 要介護高齢者への支援
- 障がい者の地域生活支援

### 【戦略3：安全安心】

安全安心で住みやすい社会

様々なくらしの場面での安全を確保します。

- 消費生活行政の推進
- 犯罪抑止総合対策
- 防災対策の推進

## 2 指標の動向

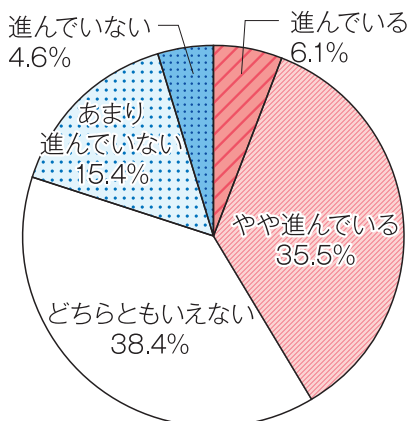
### ○戦略指標の状況

※「指標の動向」欄は、戦略策定時と評価時の比較を表している。  
また、「目標値」欄の[ ]内の数字は、当初目標の達成後に設定した目標値。

	指 標	戦略策定時 (平成20年度)	評価時 (平成23年度)	指標の 動向	目標値 (平成23年度末)	備 考
戦略1	日頃から健康のための取り組みを実施している県民の割合	34.9% (H19)	31.8% (H23)	→	40%	10項目中5項目以上の取り組みを実施している県民の割合は低下。一方、何もしていない県民の割合も低下している
	県職員(知事部局)における係長級以上の職員に占める女性の割合	13.3% (H20)	16.2% (H23)	→	20.6%	
	民間企業における管理職(係長以上)に占める女性の割合	17.7% (H19)	23.4% (H23)	→	20%	《目標値達成》
戦略2	地域の縁がわ整備箇所数	106箇所 (H19)	276箇所 (H24.3)	→	500箇所	
	認知症サポーター数	5,586人 (H19)	137,978人 (H23)	→	18,000人 [100,000人]	《目標値達成》
	県内の自治体病院における常勤医師数	294人 (H20)	316人 (H23)	→	324人	
	障がい者の日中活動系サービスの利用量	6,196人/日 (H19)	8,709人/日 (H23)	→	6,887人/日 [7,759人/日]	《目標値達成》
	生活保護就労支援プログラム参加者数・達成者率	参加者数 350人 達成者率 18.9% (H20見込)	参加者数 1,009人 達成者率 30.5% (H22)	→	参加者数 500人 達成者率 23.6%	《目標値達成》
戦略3	食品に対してとても不安を感じる県民の割合	15.4% (H19)	7.7% (H23)	→	10%未満	《目標値達成》
	消費生活相談・多重債務相談窓口整備市町村の割合	27.1% (H19)	88.9% (H22)	→	100%	
	刑法犯認知件数	19,553件/年 (H19)	14,045件/年 (H23)	→	18,000件/年以下	《目標値達成》
	自主防災組織率	44.0% (H19)	55.2% (H23)	→	70.7%	
	関係市町村のハザードマップ作成率	40% (H19)	100% (H23)	→	100%	《目標値達成》

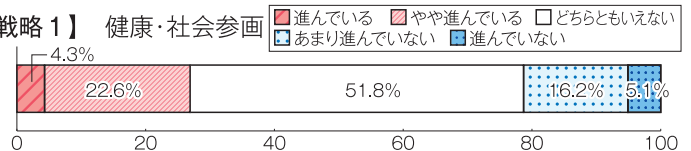
### ○県民アンケート結果 (2011年12月調査)

#### 《「長寿安心くまもと」分野の進み具合について》

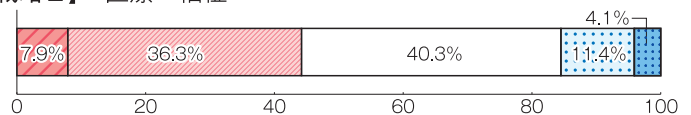


#### 《「長寿安心くまもと」分野を構成する各戦略の進み具合について》

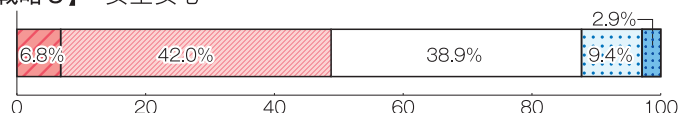
##### 【戦略1】 健康・社会参画



##### 【戦略2】 医療・福祉



##### 【戦略3】 安全安心



### 3 戦略の主な成果および今後の課題

#### 【戦略1】 県民一人ひとりが人権を尊重され、健やかに生き甲斐を持って力を発揮できる社会

##### 【健康増進・長寿づくりの推進】

- 健康づくり県民会議で、キャッチコピー「健(検)診は家族の幸せ守ります」を決定し、意識高揚が図られた結果、関係団体(43団体)毎に受診率向上に向けた取組みを実施。
- がん予防に理解のある企業15社と協定を締結し、各企業でがん検診受診率向上に取り組み、がん予防推進員を116名養成。
- 「ねんりんピック2011(ふれ愛)熊本」を開催(H23.10)。延べ55万人が参加し、熊本から全国へ元気を発信することができ、また、経済効果も107億円と試算。
- 特定健診・特定保健指導の実施率やがん検診受診率向上のため、関係機関と連携した取組みの強化や更なる普及啓発が必要。



ねんりんピック開会式

##### 【男女共同参画の推進】

- 市町村の男女共同参画計画策定率が、33.3%(H20.4)から、91.1%(H24.3)に増加。
- 関係団体等と連携して、企業の人事・労務担当者等を対象に、ワーク・ライフ・バランス等に係るセミナーを開催し、認知度を向上。(セミナー参加者:1,720人(H20からの延べ人数))
- 男女共に働きやすい職場づくり等について周知・意識啓発するとともに、地域の課題解決に向けた具体的な実践活動を促進することが必要。

#### 【戦略2】 住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会

##### 【地域医療体制の整備】

- ドクターヘリがH24.1.16に運航を開始し、防災消防ヘリとの2機による熊本型ヘリ救急搬送体制が本格稼働。
- がん医療の地域連携を促進し、がん患者や家族の精神的なサポートにより、QOLの向上に貢献。
- 国が指定するがん診療連携拠点病院8施設に加え、県が独自に9施設を指定し、医療従事者研修等の支援、地域連携クリティカルパス・がんサロンの普及を促進。
- 地域における病院の医師確保や、専門分野だけでなく幅広い診療ができる総合医の養成が必要。



ドクターヘリ

##### 【要介護高齢者への支援】

- 「くまもと・健やか・長寿プラン」等に基づき、特別養護老人ホームなど約4,100人分の施設・居住系サービスを整備。
- 平成23年度末までに13万人を超える認知症サポーターを養成し、県人口に占めるサポーターの割合が3年連続で日本一を達成。(認知症サポーター数:137,978人(H23))
- 一人暮らしの高齢者を地域で見守るために、県警等を含めた組織的な協定としては全国初となる、民間事業者が「見守り応援隊」となる協定を締結(H23.3)。
- 基幹型(1ヶ所)、地域拠点型(9ヶ所)の2層構造を持つ認知症疾患医療センター「熊本モデル」を整備し、専門的な認知症医療の体制づくりを促進。
- 自分にあった方法やできる範囲で、より多くの高齢者が地域・社会貢献活動や生きがいと健康づくりに取り組める仕組みづくりが必要。

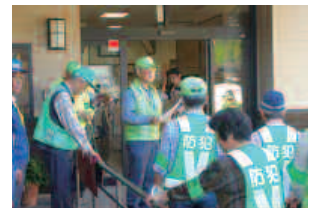
##### 【障がい者の地域生活支援】

- 施設入所者及び受入条件が整えば退院可能な精神障がい者の地域生活への移行者数が着実に増加し、障がい者の地域移行が進展。(施設入所者:469人、精神障がい者:559人(ともにH18~H22の累計))
- 障がい者の権利擁護の推進に向け、障がいの有無にかかわらず、県民誰もが安心して暮らすことのできる共生社会の実現を目的とした九州初、全国で4番目となる「障害のある人もない人も共に生きる熊本づくり条例」を制定(H23.7)。
- 障がい者が地域で安心して暮らせるよう条例の周知と円滑な運用を図るとともに、障がい福祉サービスの地域間格差の解消が必要。

#### 【戦略3】 安全安心で住みやすい社会

##### 【消費生活行政の推進】

- 市町村の消費生活相談窓口の充実強化を支援したことにより、住民が相談しやすい相談体制が充実。(市町村の消費生活センター:H20 1市 → H23 12市)
- 食品の安全性に「とても不安がある」と感じる県民が減少(H19 15.4% → H23 7.7%)
- 消費生活センターを設置した市町村を地域の核として、各地域の市町村の連携を強化し、県内すべての地域において、相談者の事情を聴取したうえで助言等ができる窓口の体制整備が必要。



防犯ボランティア活動

##### 【犯罪抑止総合対策】

- 刑法犯認知件数が平成19年から4年連続で減少。(H19 19,553件 → H23 14,045件)
- 全国初となる「県民を振り込め詐欺被害から守る条例」の制定・施行(H21.4.1)により、振り込め詐欺認知件数及び被害額がともに減少。
- 「暴力団排除条例」の制定・施行(完全施行H23.7.1)にともない、県民の暴力団排除意識の高揚、暴力団排除活動の促進が図られ、中心繁華街において、標章制度の普及・定着や条例違反検挙、事務所の撤去など暴力団の弱体化を推進。
- 地域防犯ボランティアは、活動の基盤が脆弱なため、継続した活動及び組織の活性化に向け、警察や市町村等の連携による支援が必要。

##### 【防災対策の推進】

- 防災情報メールサービスにより気象警報や避難勧告・指示、地震情報の迅速・的確な伝達が実現。(メールサービス登録者数:H21 4,905人 → H24.3 21,355人)
- 洪水浸水想定区域図を策定し、関係市町村の洪水ハザードマップ作成を支援。(情報提供した関係市町村の洪水ハザードマップ作成率:H20 40% → H23 100%)
- 東日本大震災を踏まえ、ハード・ソフト一体となった防災体制の整備促進に向けた地域防災計画の見直しが必要。また、消防広域化を推進するため、構成市町村の意識醸成や課題整理等を積極的に進める必要がある。

# III 品格あるくまもと ～地域づくり、環境、新幹線・基盤～

## 1 戦略の概要

### 【戦略1：地域づくり】

誇りに満ちた魅力あふれる地域社会の創造

### 【目標】

誇れる地域の魅力をつくります。

### 【重点的に取り組む施策】

○くまもと文化の創造と継承、発信

### 【戦略2：環境】

低炭素、循環及び共生を基調とした持続可能な社会

県民総ぐるみで世界に誇れる環境立県くまもとをめざします。

○県民総ぐるみによる地球温暖化対策とエコ活動の推進  
○健全な水循環と水環境の保全

### 【戦略3：新幹線・基盤】

九州新幹線全線開業効果の最大化による県全体の発展

九州新幹線全線開業効果の最大化を図ります。

○熊本駅周辺の整備  
○新幹線元年戦略の推進  
○幹線道路ネットワークの整備

## 2 指標の動向

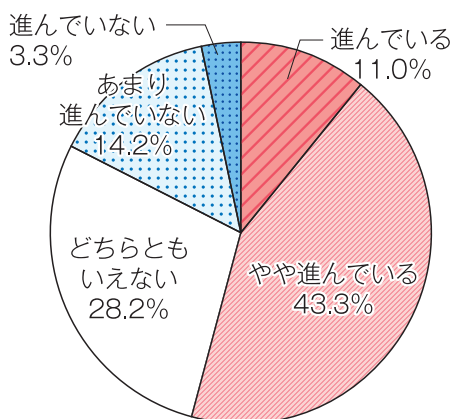
### ○戦略指標の状況

※「指標の動向」欄は、戦略策定時と評価時の比較を表している。  
なお、平成20年度からの累計で示す指標は常に上向きとなるため、「-」と表示。

	指 標	戦略策定時 (平成20年度)	評価時 (平成23年度)	指標の 動向	目標値 (平成23年度末)	備 考
戦略1	世界文化遺産登録に関連する資産の国指定(選定)件数	4カ所 (H20)	5カ所 (H23)	→	10カ所	
	文化施設の利用者数	82.3万人/年 (H19)	94.8万人/年 (H23)	→	86.2万人/年	
	火の国未来づくりネットワーク会員の新規加入数(平成20年度からの累計)	9団体/年 (H19)	48団体 (H23.12)	-	40団体/4年間	《目標値達成》
	ロアツ熊本ホームゲーム1試合平均入場者数	5,279人 (H20)	6,928人 (H23)	→	J2の1試合平均入場者数(H23)を上回る	《目標値達成》 (参考)J2平均:6,423人
	県立スポーツ施設の利用者数(観客数を含まない)	125万人/年 (H19)	120万人/年 (H22)	→	129万人/年	KKWING、パークドームにおいて、改修による使用不能期間があったため
戦略2	温室効果ガス総排出量削減率(基準年:平成2年)	+10.2% (H18)	-5.2% (H21)	→	-6%	
	地球温暖化防止行動を実践する県民の割合	80.1% (H19)	94.1% (H23)	→	90%	《目標値達成》
	一人一日当たりの上水道使用量	341L/人・日 (H18)	329L/人・日 (H21)	→	335L/人・日	《目標値達成》
	地下水の採取量の削減	26,739万㎡ (H18)	24,055万㎡ (H21)	→	26,071万㎡	《目標値達成》
	公共用水域における環境基準(BOD・COD)の達成状況	河川 93.8% 湖沼 100.0% 海域 73.7% (H19)	河川 95.7% 湖沼 66.7% 海域 73.7% (H22)	→	河川 100% 湖沼 100% 海域 100%	湖沼は、調査地点3箇所の内1箇所が未達成となったため下降
戦略3	観光宿泊客数	691万人/年 (H19)	647万人/年 (H22)	→	750万人/年	【再掲】
	KANSAI地域(関西・中国地方)における認知度(関心の度合い)	13% (H18)	21% (H23)	→	26%	(参考) くまもんの認知度:約60%
	幹線道路の整備進捗率(供用率)	35% (H19)	44% (H22)	→	44%	《目標値達成》

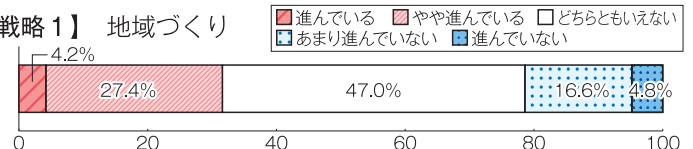
### ○県民アンケート結果(2011年12月調査)

#### 《「品格あるくまもと」分野の進み具合について》

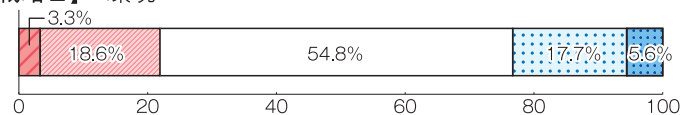


#### 《「品格あるくまもと」分野を構成する各戦略の進み具合について》

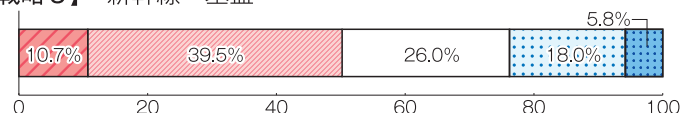
##### 【戦略1】 地域づくり



##### 【戦略2】 環境



##### 【戦略3】 新幹線・基盤



### 3 戦略の主な成果および今後の課題

#### 【戦略 1】誇りに満ちた魅力あふれる地域社会の創造

##### 【くまもと文化の創造と継承、発信】

- 「阿蘇」・「九州・山口の近代化産業遺産群(旧万田坑、三角西港)」・「天草のキリスト教関連遺産」(以下、「3資産」という。)の世界文化遺産登録を推進。天草の「崎津の漁村景観」がH23年2月に国の重要文化的景観に選定。
- 鞠智城の国営公園園化に向けて、国内外での出展、イメージキャラクター「ころう君」を活用した広報展開を図り、知名度や歴史的価値の認知度が向上。
- ロアッソ熊本の活躍や積極的な社会貢献活動への取組みにより、県民の支援の輪が拡大、J1昇格の機運が向上。(ホームゲーム平均入場者数:H20年 5,279人 → H23年 6,928人)
- 「加藤・細川の400年の歴史と文化」について、シンポジウムや特別展、企画展を実施するなど、加藤・細川の歴史文化にスポットを当てた取組みを推進。
- 県芸術文化祭や県立劇場を拠点とした活動を通じて、地域文化の継承や芸術文化の振興を推進。
- 阿蘇の草原の維持・再生のための取組みを強化。
- 地域文化資源の磨き上げを進めるとともに、3資産の世界文化遺産登録推進等のため、関係自治体との緊密な連携と長期に渡る継続した取組みが必要。



世界文化遺産登録を目指す「阿蘇」の米塚

#### 【戦略 2】低炭素、循環及び共生を基調とした持続可能な社会

##### 【県民総ぐるみによる地球温暖化対策とエコ活動の推進】

- 「熊本県ストップ温暖化総ぐるみ運動」の開始、「温暖化防止条例」の制定など、低炭素社会に向けた取組みを実施。(地球温暖化防止行動を実践する県民の割合:H20 80.1% → H23 94.1%)
- 「太陽光発電普及率日本一」を目指して県内事業者や一般家庭に対して太陽光発電システム補助事業等を実施し、太陽光発電システムの導入を促進。(住宅用太陽光発電システムの普及率:H21 4.31%(全国2位)、H22 5.63%(全国2位))
- 間伐等の森林整備を推進し、森林が有するCO<sub>2</sub>吸収など多面的機能を維持増進。
- 廃棄物の3R、廃棄物の適正処理、公共関与による管理型最終処分場の整備の推進(H23に南関町、和水町と基本協定書締結)により生活環境の保全と公衆衛生の向上に貢献。
- 環境に配慮した行動を促すとともに、木質バイオマスや小水力発電等を活用した新エネルギーの導入促進などにより、CO<sub>2</sub>排出量の削減とエネルギーの地産地消を進めることが必要。



平成の名水六嘉湧水群・浮島

##### 【健全な水循環と水環境の保全】

- 地下水を「公共水」と位置付け、硝酸性窒素汚染対策、大口採取に対する許可制の導入、かん養対策の義務付けなどを含む、「地下水保全条例」の改正に取り組み、地下水保全管理の中核組織「くまもと地下水財団」の設立準備を推進。
- 地下水保全に対する、県民・事業者・関係団体の理解を一層深めることが必要。

#### 【戦略 3】九州新幹線全線開業効果の最大化による県全体の発展

##### 【熊本駅周辺の整備】

- くまもとアートポリスコミッショナーの伊東豊雄氏、プリツカー賞受賞の安藤忠雄氏と西沢立衛氏という日本を代表する建築家が携わり、「県都の品格ある玄関口」にふさわしい駅舎及び駅前広場のデザインを策定。
- 厳しい工程の中、JR九州や熊本市等の関係機関との調整を実施し、新幹線全線開業に向けた都市基盤整備を実施。
- 継続的な熊本駅周辺の魅力と賑わいづくりのため、熊本市やJR九州、経済界等との連携により、民間を主体とした都市機能の導入をより一層進めることが必要。



熊本駅白川口(東口)駅前広場

##### 【新幹線元年戦略の推進】

- 新幹線元年事業及び「くまモン」を前面に押し出した「くまもとサプライズ」の展開を通じ、地域間・民間連携による地域の祭り等が開催されるとともに、住民によるおもてなしの取組みが定着しつつあるなど、地域の力による魅力づくりが促進。
- 新幹線開業効果の最大化をめざし、KANSAI(関西・中国)地域及び首都圏をターゲットとした戦略的な取組みを行い、くまもとブランドの発信により認知度向上。
- 「くまモン」を営業部長に任じ、くまもとの食材を利用した大手食品企業とのコラボレーションを実施。
- 県民総参加による地域の振興とともに、くまもとの魅力ある食材等、くまもとの具体的なイメージを持ってもらえるような仕掛けを「くまモン」展開と絡めて進めることが必要。

##### 【幹線道路ネットワークの整備】

- 県内の高速交通ネットワーク形成及び九州新幹線の全線開業効果を波及させるために重要な九州中央自動車道や南九州西回り自動車道「芦北出水道路」、熊本西環状線、熊本天草幹線道路の整備を推進。
- 阿蘇くまもと空港と肥後大津駅を結ぶ「空港ライナー」をH23年10月から試験運行し、空港アクセス強化を促進。
- 九州の中心に位置するという本県の拠点性を高めるためには、横軸の道路整備が引き続き最重要課題であり、九州中央自動車道、中九州横断道路、熊本天草幹線道路の整備に重点的に取り組むことが必要。

##### 【熊本市の政令指定都市実現への取組み】

- 政令指定都市実現に向けて、近隣町との合併について全面的な支援を行うとともに、県市連携して、総務省への事前説明、関係省庁への要望活動などの取組みを行ってきた結果、H23. 10. 18の閣議でH24. 4. 1の政令指定都市移行が決定。
- 政令指定都市誕生による波及効果の最大化、県全体の浮揚につなげる取組みが必要。



# IV 人が輝くくまもと ~子育て、教育、就労~

## 1 戦略の概要

【戦略1：子育て】

【目標】

【重点的に取り組む施策】

子どもの笑顔があふれる社会

健やかに育つ子どもを増やします。

○子育てへの多様な支援

【戦略2：教育】

子どもたちの「夢への架け橋」  
となる教育

子どもたちの確かな学力と健やかな心身をはぐくみます。

○確かな学力の向上  
○豊かな心をはぐくむ教育の充実

【戦略3：就労】

働くことを通して自己実現できる社会

働く人、働きたい人を応援します。

○若年者の就労支援

## 2 指標の動向

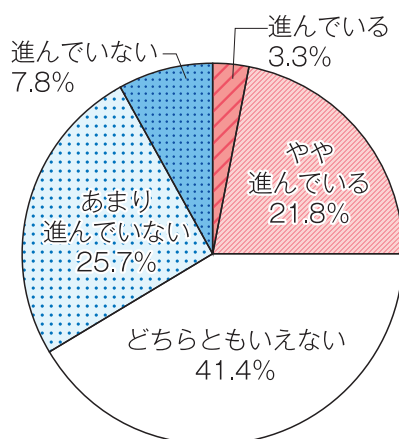
### ○戦略指標の状況

※「指標の動向」欄は、戦略策定時と評価時の比較を表している。  
また、「目標値」欄の[ ]内の数字は、当初目標の達成後に設定した目標値。

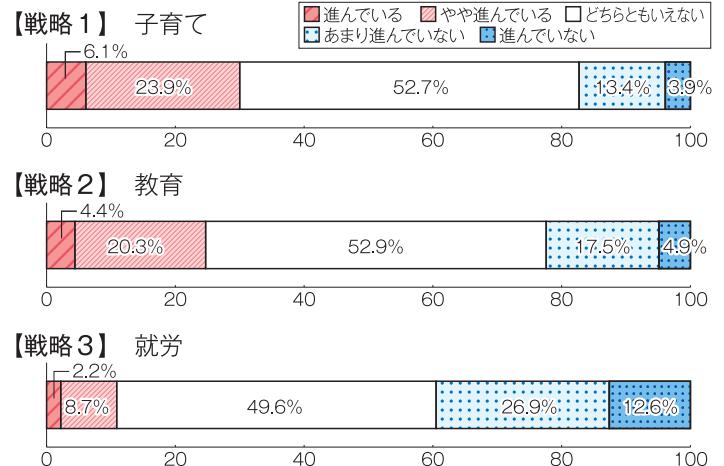
	指 標	戦略策定時 (平成20年度)	評価時 (平成23年度)	指標の 動向	目標値 (平成23年度末)	備 考
戦略1	「肥後っ子の日」を知っている 県民の割合	— (※新しい指標のため現状 値なし)	7.5% (H23)	→	50%	
	くまもと子育て応援の店・企業 登録数	1,120件 (H19)	2,442件 (H24.3)	→	2,400件	《目標値達成》
戦略2	全国学力・学習状況調査にお いて平均正答率が全国平均を 上回った項目数	8項目中6項目 (H20)	8項目中7項目 (H22)	→	全項目で全国平均を 上回る	
	大学等進学率	41.7% (H19)	43.1% (H22)	→	47%	
	不登校児童生徒の割合	1.09% (H19)	0.96% (H22)	→	1%未満	《目標値達成》
	児童生徒の体力運動能力調査 の県平均値(偏差値)	50.42 (H19)	50.78 (H22)	→	平成20年度を上回る 数値	《目標値達成》
戦略3	インターンシップに参加した県 立高等学校の生徒のうち、イ ンターンシップが進路につい て考えるきっかけとなったと回 答した生徒の割合	89.1% (H19)	93.0% (H22)	→	93%	《目標値達成》
	県内就職を希望する生徒の県 内就職決定率	95.6% (H19)	94.6% (H22)	→	97%	雇用情勢の悪化によりH21には 92.6%まで下降したが、H22は2.0ポ イント上昇した
	ジョブカフェ利用者における就 職決定数	552人/年 (H19)	1,782人/年 (H23)	→	600人/年 [1,100人/年]	《目標値達成》

### ○県民アンケート結果 (2011年12月調査)

《「人が輝くくまもと」分野の進み具合について》



《「人が輝くくまもと」分野を構成する各戦略の進み具合について》



### 3 戦略の主な成果および今後の課題

#### 【戦略1】子どもの笑顔があふれる社会

##### 【子育てへの多様な支援】

- 全国最大規模(16億円)のひとり親家庭等応援事業により、ひとり親等443名に対し技能訓練を実施するとともに、相談窓口の拡充、子どもたち349名に対する学習指導、HPの開設、ひとり親家庭等応援隊の結成などを行い、ひとり親家庭に対する総合的な自立支援を推進。
- 「くまもと子育て応援の店・企業」の登録数がH23年度目標値(2,400件)を超え、子育て環境の整備を促進。(登録数:H19 1,120件 → H24.3月末 2,442件)
- 放課後児童クラブの設置・運営支援により、実施箇所数が着実に増加し、放課後児童の安全・安心な場所の確保が進展。(箇所数(熊本市を除く):H19 209箇所 → H23 232箇所)
- H21～23の3か年で県内の56保育所において施設整備(新築・増改築等)が行われ、定員が1,615人増加。
- 第3子以降3歳未満児の保育料を無料化又は軽減する市町村への支援により、子育て家庭の経済的負担を軽減。(実施市町村数:H20 39市町村 → H23 43市町村)
- 社会全体で子育て・子育てを支えるという意識の醸成、ワークライフバランスの実現に向けた多様な子育て支援の推進が必要。



父子ふれあいサッカー教室

#### 【戦略2】子どもたちの「夢への架け橋」となる教育

##### 【確かな学力の向上】

- 「知事出前ゼミ」により、県内32市町村の学校等で50回、2万9千人以上の子どもたち等に、夢を持つことの大切さを講話。
- 私学振興を推進する「熊本時習館構想」により、様々な分野の第一人者による特別授業、私学情報サイトの開設、海外大学進学支援など様々な支援策に取り組み、私学間の交流や切磋琢磨する意識の醸成等を図り、生徒の夢の発見・挑戦・実現に貢献。
- 経済的理由で進学を断念する事がないよう、育英資金の貸付、授業料減免、生活保護世帯や児童養護施設等の子どもたちへの大学進学支援、ひとり親世帯への学習支援等を実施し、「貧困の連鎖を教育で断ち切る」取組みを推進。
- 全国学力・学習状況調査結果は、概ね全国平均を上回っており(8項目中7項目)、小学生・中学生においては知識が定着。
- 生活環境などから生じている教育の格差を解消し、小学校低学年からの学習意欲や学力向上を図るとともに、子どもたちの夢の発見・挑戦・実現を支援していくことが必要。



知事出前ゼミ

##### 【豊かな心をはぐくむ教育の充実】

- 子どもの発達段階に応じたくまもと「親の学び」プログラムを作成。本プログラムを活用した講座に平成22年度は約8千5百人、平成23年度は1万6千人以上が参加し、家庭教育に対する保護者の意識が向上。
- スクールカウンセラー等配置により学校の支援体制が充実し、いじめ・不登校の未然防止・解消が進んでおり、いじめアンケート結果では、今の学年になっていじめられたと回答した割合が減少傾向。(H19 15.1% → H22 10.3%)
- 学校版環境ISOの取組みの推進、水俣病の教訓に学ぶため全ての小学5年生の水俣への派遣など環境教育を充実。
- 平成23年4月に、熊本養護学校高等部東町分教室、松橋西養護学校高等部上益城分教室、芦北養護学校高等部佐敷分教室を開設し、増加している特別支援学校を希望する児童生徒の教育環境を整備。
- 家庭教育に関心の薄い保護者への働きかけとともに、世界で活躍できるグローバルな人材の育成、東日本大震災を教訓にした防災教育の充実など新たな課題に対する対応が必要。

#### 【戦略3】働くことを通して自己実現できる社会

##### 【若年者の就労支援】

- 就学前～大学等のそれぞれの発育・発達段階において教育界が主体となり進めているキャリア教育を、産業界・行政が連携・支援して、子どもや若者の勤労観・職業観を醸成。
- 平成22年度は全県立学校でインターンシップを実施し、6,874人が参加。インターンシップに参加した県立高等学校生徒のうち、インターンシップが進路について考えるきっかけとなったと回答した割合が93%となり、目標を達成。
- 平成22年度は就職の厳しい高校にキャリアサポーター(25人を35校)を配置し、配置校における就職決定率は公立全体の決定率を0.5ポイント上回り一定の成果。
- 雇用関連情報の提供、就職相談から職業紹介に至る雇用関連のサービスをワンストップで提供する「ジョブカフェくまもと」に加え、平成22年度から全地域振興局(10カ所)に「ジョブカフェ・ランチ」を設置し、県下全域で若年者への就職支援を実施。
- 厳しい雇用情勢が続く中、企業ニーズを反映させた知識・技能の習得のための職業訓練や教育機関、国、経済団体等と連携した支援体制の強化が必要。



高校生のインターンシップ

( 「○」: ビジョンの各地域の主な取組みの方向性  
「◆」: 「幸せ実感くまもと4カ年戦略」の主な施策 )

熊本市を中心とした熊本都市圏地域		
○これまでの産業集積等を生かした関連企業誘致の促進	◆創造的企業誘致を進める ◆熊本イノベーションを進める	戦略1-① 戦略1-①等
○生活環境の整備等による移住・定住の促進	◆拠点性を高める	戦略11-①等
○熊本市及びその周辺地域におけるハブ機能の強化	◆ポートセールスを新体制で展開する ◆大空港構想を進める ◆世界的な熊本駅をめざす ◆すべての道はくまもとに通じる	戦略5-① 戦略11-② 戦略11-② 戦略11-②等
○官民協働による地下水保全対策の強化	◆地下水を守り抜く	戦略12-②等
○県と熊本市との連携強化	◆拠点性を高める	戦略11-①等

県北地域		
○県北の玄関口としての玉名地域の機能強化	◆創造的企業誘致を進める ◆新幹線効果を各地域へ広める ◆メガソーラーを立地する	戦略1-① 戦略3-① 戦略4-①等
○福岡などからの誘客をめざした広域的観光の振興	◆ストーリー性のある観光戦略を展開する ◆アジアの市場に打って出る ◆歴史・文化を磨き上げる	戦略1-② 戦略5-① 戦略12-①等
○更なる農業所得の向上	◆生産・出荷体制を再編・強化する ◆安全安心・ブランド力を強化する	戦略2-① 戦略2-③等

阿蘇地域		
○阿蘇の草原の維持・再生等	◆阿蘇の草原・景観を引き継ぐ	戦略12-②等
○九州観光の拠点化(ハブ化)の推進	◆ストーリー性のある観光戦略を展開する ◆観光客を増やす ◆世界遺産登録をめざす	戦略1-② 戦略5-② 戦略12-①等
○エネルギーの地産地消(スマートビレッジ)のモデルづくり	◆再生エネルギーによる農業を展開する ◆エネルギーの地産地消を進める	戦略2-② 戦略4-①等
○地域特性を生かした農業の振興	◆安全安心・ブランド力を強化する	戦略2-③等

県央東部地域		
○平坦地域を中心とした移住・定住、 企業誘致の推進	◆創造的企業誘致を進める ◆拠点性を高める	戦略1-① 戦略11-①等
○中山間・県境地域における交流人口 拡大	◆観光客を呼び込む ◆都市との新たな交流を生み出す ◆素晴らしい景観を守る	戦略1-② 戦略3-① 戦略12-②等
○農林業の高付加価値化等	◆新たな力を取り込む ◆安全安心・ブランド力を強化する	戦略2-② 戦略2-③等

県南地域		
○農林業の更なる振興	◆フードバレー構想で県南を活性化する ◆担い手へ農地の集積を進める	戦略1-① 戦略2-①等
○八代港の活用	◆ポートセールスを新体制で展開する	戦略5-①等
○広域観光の推進	◆ストーリー性のある観光戦略を展開する ◆新幹線効果を各地域へ広める	戦略1-② 戦略3-①等
○スポーツによる賑わいづくり	◆観光客を呼び込む	戦略1-②等
○農業における新エネルギーの導入	◆再生エネルギーによる農業を展開する ◆エネルギーの地産地消を進める	戦略2-② 戦略4-①等
○「第五次水俣・芦北地域振興計画」の 着実な推進等	◆県南を活性化する	戦略3-②等
○五木村の振興		

天草・宇土半島地域		
○地域の特性を生かした観光の振興	◆新幹線効果を各地域へ広める ◆観光客を増やす ◆世界遺産登録をめざす	戦略3-① 戦略5-② 戦略12-①等
○6次産業化等による農林水産業の振興	◆安全安心・ブランド力を強化する ◆新たな力を取り込む	戦略2-③ 戦略2-②等
○天草オリジナルブランドの育成と発信	◆県民と共有する	戦略12-①等

〔取組みの方向性〕“活力を創る”〔めざす姿〕「活力溢れる元気なくまもと」		
戦略1 ビッグチャンスを生かす ～県経済の力強い成長をリードします～		
戦略1-① 産業力の強化		P12～13
1	中小企業のチャレンジをサポートする ～中小企業の挑戦への総合的な支援～	
2	創造的企業誘致を進める ～研究開発部門等を中心とした企業誘致の強化～	
3	熊本イノベーションを進める ～熊本発の新製品の創出～	
4	フードバレー構想で県南を活性化させる ～県南地域のポテンシャルを生かした産業集積～	
5	起業を応援する ～起業化に向けたチャレンジへの支援～	
6	福祉を成長産業として支援する ～産業としての「福祉」ビジネスへの支援～	
戦略1-② 九州の観光拠点化		P14
7	観光客を呼び込む ～九州各県や市町村等との連携による観光誘客の促進～	
8	ストーリー性のある観光戦略を展開する ～熊本ならではの観光戦略の推進～	
戦略2 稼げる農林水産業への挑戦 ～農林水産業を再生します～		
戦略2-① 生産構造の変革と効率化		P16
9	担い手へ農地の集積を進める ～農地集積の加速化による生産基盤の強化～	
10	活力ある担い手を育てる ～担い手の確保・育成の強化～	
11	生産・出荷体制を再編・強化する ～農林水産業の生産力の強化と効率化～	
戦略2-② 次世代型産業への挑戦		P17
12	再生エネルギーによる農業を展開する ～農山漁村におけるエネルギーの地産地消～	
13	新たな力を取り込む ～新たな分野(力)との連携による農林水産業の展開～	
戦略2-③ くまもとブランドの創造・確立		P18
14	安全安心・ブランド力を強化する ～くまもとの安全安心・ブランドの発信～	
15	“赤”で売り出す ～“赤”の統一ブランドイメージの発信～	
16	地産地消を進める ～県民一体となった地産地消運動の展開～	
戦略3 地域力を高める ～政令指定都市以外の地域振興を重点的に進めます～		
戦略3-① 交流拡大による地域振興		P20
17	新幹線効果を各地域へ広める ～新幹線効果の波及による地域振興～	
18	都市との新たな交流を生み出す ～地域の魅力ある資源を生かした新たな交流の創造～	
19	スポーツを振興する ～ロアツソ熊本などを生かしたスポーツによる地域活性化～	
戦略3-② 地域の現状やニーズを踏まえた地域振興		P21
20	地域のチャレンジを応援する ～地域づくりへの挑戦に対する支援～	
21	県南を活性化させる ～県南振興、「水保・芦北地域振興計画」及び「ふるさと五木村づくり計画」の取組み強化～	
22	地域の生活を支える ～買い物弱者の解消と地域の移動手段の確保～	
23	情報通信技術を活用する ～情報通信技術(ICT)を活用した地域活性化～	
戦略4 未来型エネルギーのトップランナー ～新エネ・省エネの先進県をめざします～		
戦略4-① 新エネルギーの導入の加速化		P23
24	エネルギーの地産地消を進める ～地域の自然や特性を生かした多様な新エネルギーの導入の加速化～	
25	メガソーラーを立地する ～メガソーラーの立地促進とエネルギー関連産業の集積～	
戦略4-② 省エネルギーの推進の強化		P24
26	省エネルギーを強化する ～省エネルギー化への支援と県民総ぐるみ運動の強化～	
〔取組みの方向性〕“アジアとつながる”〔めざす姿〕「アジアの中で存在感のあるくまもと」		
戦略5 アクション・アジア ～成長するアジアの市場に打って出ます～		
戦略5-① アジアに打って出る		P27
27	アジアの市場に打って出る ～新たなマーケットの開拓と交流促進～	
28	ポートセールスを新体制で展開する ～熊本港・八代港を活用したポートセールスの強化～	
戦略5-② アジアから呼び込む		P28
29	観光客を増やす ～アジアをターゲットとした誘客戦略の強化～	
30	留学生から「選ばれる」まちを創る ～留学生とつながる仕組みづくり～	
〔取組みの方向性〕“安心を実現する”〔めざす姿〕「いつまでも楽しく、元気で、安心して暮らせるくまもと」		
戦略6 長寿を楽しむ ～長寿を恐れない社会から長寿を楽しむ社会へ～		
戦略6-① 長寿を楽しむくらしづくり		P32
31	いつまでも元気に長生きできる ～いつまでも健康で活躍できる環境づくり～	
32	年金プラスαのシルバーライフを実現する ～高齢者のコミュニティビジネスなどへの支援～	
戦略6-② 長寿の安心を実現するための体制づくり		P33
33	介護が必要になっても安心して暮らせる ～地域での介護を支える環境づくり～	
34	病気になっても安心して暮らせる ～安心な地域医療体制の整備～	
35	長寿を支える環境を整備する ～高齢者が安心して暮らせる環境づくり～	
戦略7 子どもの育ちと若者のチャレンジを応援 ～熊本の未来の元気をつくります～		
戦略7-① 子どもの健やかな育ちと子育ての応援		P35
36	子育てを地域でサポート ～地域一体となった子育て支援～	
37	子育てを医療面からサポート ～病児・病後児保育への支援～	
戦略7-② 若者のチャレンジの応援		P36
38	若者の可能性を拓ける ～若者の自立と夢の実現の支援～	
39	若者の雇用を進める ～若者の雇用の創出と就職支援～	

〔取組みの方向性〕“安心を実現する” (めざす姿)「いつまでも楽しく、元気で、安心して暮らせるくまもと」(つづき)		
戦略8 障がいのある人が暮らしやすい熊本 ~ともに支え、ともに担う社会をつくります~		
戦略8-① 障がいのある人の暮らしの応援		P38
40 就労を進める ~一人ひとりに応じた就労支援~		
41 地域での暮らしを支える ~障がい者と家族が安心して暮らせる地域づくり~		
42 発達障がい児(者)を支援する ~ライフステージに応じた切れ目のない総合的な支援~		
戦略9 人が人として互いに尊重される安全安心な熊本 ~一人ひとりを大切に、一人ひとりが大切にされる、安全安心な社会を実現します~		
戦略9-① 一人ひとりが尊重される社会の構築		P40
43 一人ひとりを大切にする ~一人ひとりを大切に、大切にされる社会づくりの推進~		
44 男女がともに自立し、支えあう社会をつくる ~男女共同参画社会へ県庁率先行動~		
戦略9-② 安全安心な社会の構築		P41
45 犯罪から暮らしを守る ~犯罪の起きにくい環境の整備~		
46 交通事故から暮らしを守る ~交通安全対策の強化~		
47 健康危機から暮らしを守る ~健康危機管理対策の強化~		
48 消費者の暮らしを守る ~消費者保護対策の強化~		
戦略10 災害に負けない熊本 ~熊本の防災力を高めます~		
戦略10-① 災害に負けない社会インフラ、ソフト対策の強化		P43~44
49 自助・共助・公助を強化する ~自助・共助・公助による地域防災力の向上~		
50 学校の耐震化を進める ~学校施設の耐震化の促進~		
51 災害に強い基盤をつくる ~災害に強いソフト・ハードの基盤づくり~		

〔取組みの方向性〕“百年の礎を築く” (めざす姿)「誇りを持ち、夢の実現に挑戦するくまもと」		
戦略11 熊本都市圏の拠点性向上 ~将来の州都をめざします~		
戦略11-① 州都をめざした取組みの展開		P48
52 州都を構想する ~州都をにらんだ構想づくりの推進~		
53 拠点性を高める ~熊本型県・政令指定都市政策連携の推進~		
戦略11-② ハブ機能の強化		P49
54 大空港構想を進める ~空港周辺地域のポテンシャルの最大化~		
55 世界的な熊本駅をめざす ~熊本駅周辺地域の魅力向上~		
56 すべての道はくまもとに通じる ~幹線道路ネットワーク等の整備~		
戦略12 悠久の宝の継承 ~熊本の宝を磨き上げ、引き継いでいきます~		
戦略12-① くまもとの歴史・文化の磨き上げ、継承		P51
57 歴史・文化を磨き上げる ~地域にある歴史と文化の磨き上げと情報発信~		
58 世界遺産登録をめざす ~世界遺産登録に向けた取組みの推進~		
59 県民と共有する ~地域の宝の共有と将来へわたって守り・育む仕組みづくり~		
戦略12-② くまもとの自然・景観の保全・継承		P52
60 地下水を守り抜く ~地下水保全対策と「水の国くまもと」の実感できる取組みの推進~		
61 阿蘇の草原・景観を引き継ぐ ~阿蘇の草原と景観の保全・継承~		
62 素晴らしい景観を守る ~素晴らしい景観の保全と活用~		
戦略13 環境を豊かに ~環境意識と行動を高めていきます~		
戦略13-① 生活と自然との共生		P54
63 みどりの創造プロジェクトを進める ~「みどりの創造プロジェクト」による新たな景観向上~		
64 有明海・八代海を再生する ~有明海・八代海の再生に向けた取組みの強化~		
65 水銀条約締結の外交会議を招く ~水俣の世界への発信と将来世代への継承~		
戦略13-② 県民一人ひとりの環境意識の醸成と環境活動の実践		P55
66 地球温暖化対策・エコ活動を進める ~県民総ぐるみによる地球温暖化対策とエコ活動の更なる推進~		
67 環境教育を進める ~一人ひとりの行動につながる環境教育の強化~		
68 廃棄物対策を進める ~次代のモデルとなる廃棄物対策の強化~		
戦略14 熊本アカデミズム ~「知」の集積を「地」の活力につなげます~		
戦略14-① 世界からの「知」の集積		P57
69 「知」を集める ~世界的な知の集積~		
70 研究開発部門と大学院を誘致する ~産学官連携による最先端技術の集積~		
戦略14-② グローバルな人材の育成		P58
71 留学生から「選ばれる」まちを創る ~留学生とつながる仕組みづくり~		
72 国際人を育てる ~夢を持ち海外へ挑戦する若者への支援~		
戦略15 夢を叶える教育 ~次代を担う人材を育てます~		
戦略15-① 夢を育む教育の推進		P60
73 学力を育む ~子どもたちの確かな力の育成~		
74 貧困の連鎖を教育で断つ ~ひとり親家庭等の子どもたちの教育環境づくり~		
戦略15-② 夢を拡げる教育の展開		P60
75 夢を拡げる ~将来の熊本の発展を支える人材育成~		